

第 48 回 講演 大会 講演 前 刷 中 訂 正 (昭 和 29 年 9 月 号 特 輯)

標記の件について各講演者に対し、前刷原稿呈出後講演当日迄の間に於て更に研究を進められた結果、前刷の記事と重大な相違を生じた場合は、その点簡単に御通知を乞う旨照会しました所、次の方々より下記の如く訂正方申し入れがありました。尤も講演会場で訂正されたことと思ひますが改めて茲に正誤表を掲げます。

講演番号 (5) 講演題目 溶鉄溶滓間のクロムの分配 講演者 新 実 稔 生
 訂正箇所 p. 842 第1図中 (正) (誤)
 ○—1350°C 左の数字脱落
 ●—1400°C
 ◎—1450°C
 p. 843 左上り1行目 (正) (誤)
 図中点線は危険率 5% 図中点線は危険率 95%

講演番号 (48) 講演題目 セミガス焚加熱炉の設計について 講演者 大塚武雄, 吉成大治
 訂正箇所 p. 915 第1表中 (誤)
 第1表 (正)

		ガス発生炉	
燃 ス 焼 成 室 分 ガ	CO ₂ %		2.5
	O ₂ %		0.5
	CO%		<u>29</u>

		ガス発生炉	
			2.5
			0.5
			<u>2.9</u>

講演番号 (61) 講演題目 耐酸高珪素鑄鉄に関する研究 (I) 講演者 田 島 治
 訂正事項第1表中 (p. 937) 第1表 配合原料成分 (正) (誤)

	C	Si	Mn	P	S	Cu
高珪素鑄鉄 A				0.009	0.006	0.024
B				0.011	0.014	0.024
フェロシリコン				0.008	0.001	0.005
軟白鋼				0.009	0.030	0.026
銑				0.008	0.012	0.01

	C	Si	Mn	P	S	Cu
				0.089	0.005	
				0.056	0.015	
				0.041	0.004	
				0.018	0.035	
				0.008	0.012	0.01

講演番号 (68) 講演題目 軽油による鋼のガス滲炭について 講演者 村 上 幸 夫
 訂正箇所 p. 951 右下より2行目及び 952 左上から4行目

変成ガス組成は空気量の増加と共に H₂, CH₄ は減少し, CO, CO₂ は増加する。又滲炭用搬送ガスはガス空気混合比 1:6.5 附近で得る事が出来る。

以上前刷に発表しましたが、次の如く訂正いたします。

変成ガス組成は空気量の増加に従つて H₂, CH₄ は減少し, CO₂, H₂O は増加する。CO はガス空気比 1:4 附近より減少する。又、滲炭用搬送ガスは変成温度 900°C, ガス空気混合比 1:4 附近で得られる。その成分は CO₂=0%, CO=20.8%, CH₄=0.7%, H₂=40.5%, N₂= 残りである。

(63) 耐熱鋼 Timken に及ぼす窒素の影響 (IV) 今井勇之進・田野崎和夫

その後判明した結果は次の如くである。

- 600°C 焼戻の電解による残渣は大部分オーステナイトの結晶粒なる事が明らかとなつた。之は析出が粒界に起り、優先的に粒界のみが腐蝕される為であり、之を防ぐには加工が有効である。
- 析出物を電子顕微鏡によつて観察した結果 550°C~600°C は何れも leafy type である。700°C×30h で細かな針状晶となり、750°C×40h でずつと成長し 815°C×8h は大差ない。815°C×50h で、大いさは変わらないが、針状不明瞭になり角状晶混在する。900°C×20hr は棒状及び板状晶となり成長著しい。
- 析出物の化学分析の結果は
 1250° W. Q.
 750°C×40h A. C. : C 2.44, N 1.88, Mo 29.13, Cr 25.11, Fe 13.96, Ni 7.43, Si 2.35%
 900°C×20h AC: C 2.36, N 2.17, Mo 33.21, Cr 24.81, Fe 10.18, Ni 12.50, Si 3.79%
- 析出物の X 線分析による結果は加工→550°C×5h は不明であり、600°C 以上では何れも三方晶の Cr₇C₃, 面心立方の Cr₄C 六方晶の Cr Mo Nx の三者混在と考えられ析出物間の相互関係に就いては今後の研究に待たねばならない。